

令和元年度 学校自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1	ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	教務課	生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は77%であった。ICTを活用しやすい環境の中で、教師・生徒ともに発表や学びあいがいった授業改善が進んでいる。	【満足度指標】 全ての教員がICTを活用した授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組み、肯定的評価をさらに向上させたい。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 80%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
			生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は80%であった。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、生徒が達成感を味わえるように授業改善を行っている。	【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するように主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。	授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
	② 「総合的な探究の時間（西高SDGsプロジェクト）」の活動を通して、主体的・探究的・対話的に学び活動する態度を養う。	企画課	生徒によるアンケート結果での肯定的評価は96%と予想以上に高い評価であったが、個々の活動を見ると自己評価が甘くなっている生徒もいたと思われる。数字に実態が近づくよう更なる改善を加える予定である。	【満足度指標】 プロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組んだ、とする肯定的評価を維持する。	生徒によるアンケートで「主体的・探究的・対話的に活動に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の振り返りの時間に、生徒によるアンケートを実施する。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課 各学年	生徒による学習時間量調査の結果によると、目標達成生徒の割合は23%であった。	【成果指標】 目標とする家庭学習時間を「学年+1時間」に設定し、達成する生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	家庭学習時間量調査で評価する。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける	進路指導課 1・2学年 進路指導課 3学年	昨年度の1月校外模試3教科型偏差値が52以上の生徒は、1年生8クラスで91名、2年生9クラスで106名であった。 現3年生は、2年次1月記述模試5教科偏差値50以上が9クラスで126名、2月マーク模試総合偏差値52以上がレギュラー7クラスで41名であった。	【成果指標】 1・2年1月の校外模試で3教科型偏差値が、52以上の生徒数が、120名以上を目指す。 【成果指標】 3年校外記述模試において、偏差値50以上及びマーク模試偏差値52以上は120名以上を目指す。	1月の校外模試3教科型偏差値52以上が A 120名以上 B 100名以上 C 80名以上 D 80名未満 ※1・2年別に達成度を判断する 10月の校外記述模試偏差値50以上が A 100名以上 B 80名以上 C 60名以上 D 60名未満 11月のマーク模試総合偏差値52以上が A 100名以上 B 80名以上 C 60名以上 D 60名未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	当該模試の結果で評価する。
⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	国公立大学合格者数は62名。 金沢大学、富山大学合わせた合格者は、15名（金沢大4名、富山大11名）。	【成果指標】 ①国公立大学合格者数100名以上を目指す。 ②金沢大学、富山大学合わせた合格者30名以上を目指す。	①国公立大学合格者数（過年度卒含む）が ②金沢大学、富山大学合わせた合格者が A ①100名以上かつ②30名以上 B ①70名以上または②25名以上 C ①50名以上または②20名以上 D ①50名未満かつ②20名未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で評価	
2	組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	生徒指導課	挨拶は、されたら返す程度で自ら発する生徒は半数に満たない。また、声に出して伝えることが苦手な生徒が少なくないために、会釈のみの挨拶をしている場面が散見される。	【成果指標】 自ら相手に対し、挨拶を発することができたかどうか？生徒アンケートから評価する。	学期末ごとの生徒アンケートから、いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で評価
			交通違反件数は減少してきているが、約900名の生徒が自転車通学をしており、その中には、自分勝手な運転をして交通事故に遭ったり、スマホやイヤホン等のながら運転はまだまだ目にする光景である。	【成果指標】 県教委からの自転車乗車違反指導件数から評価する。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で A 30件未満 B 30件以上 C 40件以上 D 50件以上	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で評価
			昨年度はいじめアンケート2回で1名もいじめを訴える生徒はいなかった。しかし、生徒アンケートからはいじめへの肯定的な取組については56%と低い数値が示された。生徒が安心して通える学校づくりへの改善がさらに必要と考える。	【成果指標】 互いを尊重できる居心地の良い学校かどうか、学期末アンケートから評価する。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケート集計で、肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	生徒による学校評価アンケート

		④ 自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	視力低下や歯科疾患を放置し医療機関を受診しない傾向が見られ、自らの健康問題の改善に真剣に取り組む意識が低い。	【成果指標】 視力と歯の受診者全員が健康問題に関心を持ち、医療機関を受診して視力の矯正や、齲歯の治療等を行うことを目指す。	視力と歯の要受診者の受診率平均が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で評価
3	文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	① 運動部・文化部ともに活動内容の充実と挨拶などの規範意識の醸成を図りながら部員数の増加・定着に努める。	生徒会課	昨年度は例年に比べ退部者人数は減少したが、部活動の意義と継続する大切さを教師側がしっかりと生徒に伝え続ける姿勢が必要である。規範意識の挨拶については、しっかりできる部とそうでない部が二極化している。	【成果指標】 部活動加入率95%以上を確保する。年2回の部活動所属調査によって評価する。	部活動加入率が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	C、Dの場合、再入部指導を検討する。	年度末の実績で評価
		② 運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒会課	県高校総体総合成績については一昨年15位から昨年度21位へ後退した。文化部については、賞状の枚数の増加だけでは測りきれないが、より活性化につながるよう指導面・環境面のさらなる整備が必要である。	【成果指標】 部活動の練習内容の充実(科学的トレーニングの導入、効率化、自主性)によって前年度以上の成果を目指す。運動部については、県高校総体総合成績の順位によって評価する。文化部については、各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で評価
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	① 学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は74%であった。 昨年度、PTA総会・教育ウィーク時の保護者の来校者数はのべ500名であった。	【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を80%以上にする。 【努力指標】 PTA総会、教育ウィーク時の保護者の来校者数を増やす。また、進路説明会などの来校者数も増やしていきたい。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 PTA総会、教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校者のべ人数 A 1000名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 500名未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	保護者による学校評価アンケートで 評価
		② 各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	昨年度12月末までの図書館の貸出冊数は、生徒1人当たり1.88冊であった。	【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたり12月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	12月末の実績で 評価
		③ 節電・節水、ゴミの分別や紙の3R活動を通して、環境保全活動への意識関心を高める。	保健相談課	環境委員会活動を通して、環境に対する生徒の意識を高めてきたが、環境保全活動に対する意識が薄い。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』の実践が58%であった。	【成果指標】 生徒のエコ活動を推進し、環境に対する意識を高める。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、前年度以上の回収率を目指す。	『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回収率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、 方策を検討する。	年度末の実績で 評価
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業務改善に向けた学校マネジメントを推進するために具体的な取組を行う。	① ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。		昨年度の職員へのアンケート結果では、肯定的評価は62%であった。今年度も引き続き、業務の質的向上とワークライフバランスに繋がる業務改善に取り組む必要がある。	【努力指標】 具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合を増加させる。	具体的な取り組みを実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し方策を検討する。	職員へのアンケートおよび勤務時間調査で 評価